

全国中国語教育協議会

ニューズレター

第16号

2000年7月4日発行

2000年度後期セミナーの受付を開始(第4面)

「研究ファイル」原稿募集のお知らせ(第1面)

今年度の前期セミナーは、現在なお7月分を残しているが、参加者に意見表(質問表)の事前提出を求め講師の報告に反映させる方式も定着し、聞くばかりの一方通行がある程度は改善されたと思われる。しかし時間的な関係で、講師各位が直ちに報告に取り上げることは難しい場合もある。そこで今後は提出されたさまざまな問題を会報の紙面にもまとめ、会員各位にも「研究ファイル」原稿応募その他の形式でお考えを発表していただきたいと願っている。また、月例セミナーでも提出されたご意見を特集する機会を設けることとした。

今年度前期セミナーで、ひとつ残念なことは例年に比して参加者が少なく、運営に支障を来し兼ねない点である。4月は16名、5月は10名、6月は14名、7月は12名(予定)と、さびしい状況にある。詳しい報告を次号に掲載し、今後の展開にそなえることとしたい。

✍ 全国中国語教育協議会 会報・研究ファイル 原稿募集 ✍

- ☆ 会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む)
③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④私の読んだ本(外国語教育の分野で、紹介・書評とも) ⑤その他、会報にふさわしい内容の原稿。
1編1千字以内。ワープロ使用を原則とし、手書きの場合は400字詰め原稿用紙使用。締切りは特に設けない。採否は事務局一任とし、随時掲載。原稿は返却しません。
- ☆ 《研究ファイル》原稿 会報(ニューズレター)とは別に、とじこみ式の「研究ファイル」を不定期に刊行します。中国語教育に関する主張や論説をお寄せください。字数は400字詰用紙換算20~40枚程度。形式は既刊のファイルをご参照ください。理事数名の審査で採否を決めます。原稿はワープロに限り、紙に印字したものにフロッピーを必ず添付。ファイルの形式はWindowsで作成されたものとし(Macintoshは不可)、できればMicrosoft Word文書ファイルが望ましい。中国語はGB、またはBIG5で入力されたもののほか、「Chinese Writer」「Nihao Win」「cWnn」「中文起稿」等も受け付けます。

会費納入のお願い

本会の経費は年度会費2000円と有志の寄付金によっています。今年度会費をすでに納入済みの会員には、ご協力に感謝しております。納入が遅れている方は、前号会報とともに送付いたしました振り込み用紙で、至急お振り込みをお願い申し上げます。

事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中国文学研究室内

全国中国語教育協議会

郵便振替口座 00120-0-364168

なお、お問い合わせ・ご連絡等はお手数でも郵便でお願いいたします。

日本語政策研究会



このレポートでは中国語の教育や研究に関する学会・研究会をはじめ、施設・機関などを順次紹介しているが、今回は本年4月に発足した日本語政策研究会を関連団体として取り上げる。

以下に、この学際的な研究会趣意書を転載し、4月22日に桜美林大学で行われた第1回研究発表会の模様と、シンポジウムにパネリストとして出席した輿水優氏の当日の報告概要をかかげる。

日本語政策研究会趣意書（転載）

人間にとって言語ほど大切なものはありません。また、言語ほど愛着を感じる対象もないでしょう。人間がこれを鍛えることは当然です。

我々はことばの問題を意識し、それを評価し、調整の計画を立てて、それを行動に移します。

この行動は個人あるいは種々の団体のものであったり、国全体のレベルで行われたりします。

また、問題の種類は、日本語そのものに関する問題をはじめ、日本で使われている他の言語、あるいは日本人が外国との接触で用いる言語まで含まれます。

我々は世界の言語問題に無関心でいるわけにはいきません。さらに、狭い意味での言語の問題だけでなく、コミュニケーションとインターアクション一般の問題を考察する必要もあります。

しかし、日本の社会では、人々は国内あるいは国外での言語問題にまだ十分目覚めていません。

本研究会は、言語問題への意識を高めつつ、それが言語政策、言語教育、関係団体や個人の行動にどのように現れているか、あるいはそれにどのように対応すべきかを討議するための学際的な研究の場を作ることを目的とします。

第1回研究発表会プログラムの大要（敬称略）

記念講演 今なぜ言語政策か 鈴木孝夫

シンポジウム 日本の言語教育政策を考える

報告 言語と人権（在日外国人の言語権問題）

課題講演 21世紀に向けての言語政策の理論と

実践

J. V. ネウストブニー

上記のプログラムの中で、シンポジウム「日本の言語教育政策を考える」には日本語教育・国語教育・外国語教育の別にパネリストの報告が行われた。外国語については中国語教育と英語教育が取り上げられ、そのうち中国語では、輿水優が次のような報告をした。

【報告の結論部分概要】 この数十年の間に、中国語学研究は顕著な成果をあげた。しかし、その成果がかならずしも教育の現場に還元されていない。そこで3年前に全国中国語教育協議会が結成され、いま教員研修に重点を置いた活動をしている。中国における日本語教育では日本政府が教員の研修に経費を注ぎ20年以上に及んでいるが、人材の養成だけをとって日本における中国語教育との不均衡は否めず、ひいては両国間の今後の関係で日本に不利な状況も生じる危惧がある。その点、たとえばドイツは昨夏国際中国語教育シンポジウム開催を引き受け、州政府等の援助もあり、21世紀の中国語教育、中国語を20歳からの外国語にするな、といった標語を掲げ、中国から40人を招待し、各国から計400人を超える参加者を得た。5年前にも「初級の次に何を教えるか」というテーマでミニ国際シンポジウムを開き、私も招かれ、彼我の差に驚いたことがある。わが国の中国語教育は民間の講習会等が先駆けであるが、教育内容、教員の養成と配置等々で、いまこそ社会的な、組織的な力が必要となっている。

☆研究会役員☆会長：水谷修（名古屋外国語大学教授）、事務局長：田中慎也（桜美林大学教授）。事務局は桜美林大学田中研究室内。年会費3千円。

特集 月例セミナーに寄せられたご意見から(1)

月例セミナーでは、昨99年度から参加者に毎回「意見表(兼質問表)」を提出していただき、講師の報告に反映させる方式をとっているが、貴重なご意見が数多く寄せられているので、今後これらを冊子にまとめたり、会報の紙面でご紹介し、経験交流と教育研究に役立てたいと思う。かならずしも寄せられたすべてのご意見を取り上げられない点と、紙上匿名とする点はあらかじめご了承ください。読者からのご意見もいただいて討論の場が生まれれば、なお一層のぞましいと考えている。

第1回は、最新のセミナーで、本年6月実施の平井和之講師による「試験問題を採点する」に寄せられたご意見から、一部をご紹介しますこととした。

Q ご自身の中国語の授業で、日常のテストや期末試験の出題・採点・評価に関し、特に留意あるいは工夫をしていること、効果のあったことがあれば、具体的にご記入ください。

- (A1) 学生に普段からコツコツ勉強させるために、小テストをした方がよいと思う。特に初級段階の小テストでは、あまり応用的な問題は出さず、試験範囲を決めてそれをそのまま出し、覚えさせることに主眼を置く。
- (A2) 勉強量が点数に反映されるように気をつけている。“听写”の試験は音読せず単語の暗記だけしてくる学生が得点が低くなるので、初級のクラスでは最初の試験で必ずするようにしている。
- (A3) 2年生文系第二外国語の授業で冬休みの課題としてテープに課文(授業でやった範囲からいくつか指定して自由に選ばせる)を朗読したものを、テストの一部に当てるとして、提出させました。学生は皆一生懸命練習したらしく、かなり上手でした(テープは返却)。ただ、現在は1クラスの人数が多すぎて、やっていません。
- (A4) [高校の場合]教科書についている練習問題を一題一名ずつあてて答えさせる方式は不可。こうすると指名された生徒以外は考えず練習にならない。テストにして全員が書いて答えるよう無理強ひさせれば全員練習したことになる。毎時間テストをするのは絶大な効果がある。生徒は授業時間以外に勉強することは決めてないのだから、毎時間の授業を真剣に受け、その時間内に全て理解・習得させるよう授業はこびをする必要がある。毎時間テストがあれば自然と真剣みが増す。採点は○×やチェックをつけない。○×をつけると答えあわせの際まちがえた箇所以外を考えず、復習にならない。
- (A5) 为学生打好基本功是初级汉语教学的首要任务。因此，在初级汉语教学阶段，每次用留作业的方式让学生将所学的内容背下来，然后利用课堂小测验的形式(笔试)按时检查学生作业的完成情况，能促使学生一点一点地把课堂上学到的知识积累起来。另外，由于汉语初级阶段的课堂教学时学生形成并掌握正确的语音语调起决定性作用，除了笔试测验以外，还应该通过抽查口头背诵的形式检查学生语音语调的掌握情况，督促学生在完成作业时，既注意书写方面的练习，又注意语音语调方面的练习。

【おことわり】 本年は事務局の都合により夏季セミナーを月例セミナー(9月)に振り替えました。なお事務局は7月28日から1カ月間お休みしますので、セミナー申し込み等の際はご注意ください。

2000年度セミナー(後期)のご案内

土曜日午後利用の月例セミナー(教員研修)のご案内をいたします。今年度後期は夏季セミナーの分も含め、9～12月の4回(月例セミナーは各月第二土曜開催です)になります。今回は統一テーマを「私の中国語教授法」とし、各講師にさまざまな角度からお話いただきます。なお、昨年度から新しい試みとして、講師からの一方通行を排し、出席者からも発信可能な方式をとっています。詳細は下記要項をご覧ください。なお、参加は会員(教歴の比較的浅い方を特に歓迎)を優先いたしますが、会員外の方々にも積極的な参加を求めたく、会員各位には周囲の方々へのPRもお願いしたいと思います。今年度前期は各回とも定員割れでした。定員の70%以下の場合は維持が困難です。

2000年度後期セミナー要項

☆各回の日程および研修テーマと講師

- (9月) 9月9日(土) 私の中国語教授法 日本大学 輿水優氏
【講師からの一言】昨年度から月例セミナーに寄せられた参加者の意見表・質問表には多くの検討すべき問題が指摘されている。その一部をとりあげ「私の教授法」を述べたい。
- (10月) 10月14日(土) 私の中国語教授法 明海大学 加藤晴子氏
【講師からの一言】昨年度内部教材を作成する機会を与えられたが、できあがった教材には、自分の授業のスタイルがかなり反映されることになった。その教材の内容・体裁と授業での利用について、作成の経緯とあわせてご紹介したい。
- (11月) 11月11日(土) 私の中国語教授法 中央大学 佐藤富士雄氏
【講師からの一言】効果的な初級の授業の進め方や、使いやすい教材の条件などについて、ご出席の皆さんといっしょに考えてみたいと思います。
討論の材料として、発表者が自編の初級用テキスト「緑さんの留学生活」(呉江春氏と共著で98年秋に出版)を用いて、実際に教室で行っている授業の様子をご紹介し、教材作成の過程での工夫と、実際に使ってみての反省点、それを補う方法などを、具体的に説明します。成績評価の方法や、前期・後期の試験問題の実例等も、資料に加えてご覧いただく予定です。
- (12月) 12月9日(土) 私の中国語教授法(誤用から学ぶ中国語) 國學院大学 大川完三郎氏
【講師からの一言】昨年度、日本人学習者の誤用例を分析することによって、初級から中級への足がかりをつかむことを目標にした授業をおこなった。誤用の中国語をつぶさに観察すると、たしかに日本語の干渉による誤用は多いものの、「このように言うだろう」という仮説にもとづいて作られた誤用の中国語もある。ともあれ誤用分析が前車の轍を踏まない、比較的効率のよい学習方法であることは間違いない。

☆時間割りと会場

各回とも研修時間は、午後1時半～4時半(1時10分受付開始)。

会場は従前通り(財)国際文化フォーラム会議室(新宿駅西口、新宿第一生命ビル26F)。

☆申し込み方法 葉書に参加希望の月と、氏名・連絡先(住所)・所属・中国語教育歴をお書きの上、事務局へお送りください。定員各30名。申し込みは直ちに受付を開始します。折り返し、受講料の振込用紙と事前提出用の質問表を郵送します。受講料は1回=¥2,500、複数回を一括申し込みの場合は2回=¥4,500、3回=6,500、4回=¥8,500です。各回ごとの申し込みは、その都度¥2,500となります。(受講料事前納入をお願いします)

☆参加者にお送りする質問表(兼意見表)は約半月前に回収して、セミナーの内容に反映させます。